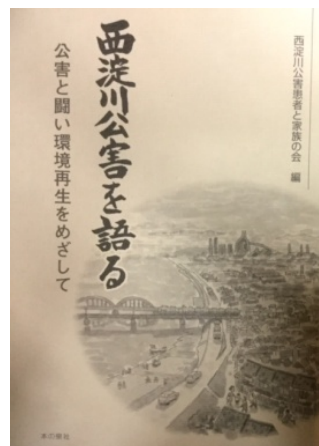


西淀川公害を語る

写真は 2008 年 3 月に刊行された、大阪西淀川の公害患者らの壮大な人間ドラマだ。「本書」では現在、西淀川公害患者と家族の会会長の森脇君雄が「語り部」となって、ここに登場する人たちの物語をお伝えしたいと思います、と書かれている。



西淀川など大阪湾最北部の工業地帯の大気汚染公害は、一地域の問題をはるかに越えた日本の歩んできた道そのものであり、日本の負の縮図でもありました。72（昭和 47）年に設立した患者会の最高会員数は 2800 人（15 歳以下の子供が半数）でしたが、今は 400 人で年配者の半数以上は亡くなっています。また、存命の患者自身も高齢化してきています。このため、私たちは提訴から三十年を期して、『西淀川公害を語る 公害と闘い環境再生をめざして』を上梓することにしました。その出版目的は公害にかかわってきた人間の営みを記録するだけにとどめず、過去の教訓から現在の環境問題を見据え、そして未来への展望に結びつけていくためです。西淀川の公害環境問題の過去を振り返りながら一西淀川とはどういうまちだったのか、それが重化学工業の進出によってどうなったのか、そこで慣れ親しんでくらしってきた住民はどうなっていったのか、企業や行政はどう対応したのか、そして、いのちを削って起ちあがった公害患者と支援した住民、医師、弁護士、学者・研究者、諸団体の人たちによる長期にわたるたたかい等々人間が人間らしく生きていくためにたたかった壮大な人間ドラマを後世に残すことによって、公害環境問題を考えてもらいたいのです。

西淀川区大和田 5 丁目に、デイサービスセンター「あおぞら苑」があります。薄い黄土色の壁に白っぽいアルミ板をあしらったツートンカラーのモダンな二階建てです。建物には、90 センチ大の檜板に行書体の筆字で、「あおぞら苑」と表示されています。2006（平成 18）年 10 月 1 日にオープンしました。あおぞら苑は、公害とのたたかいの一里塚であり、現在の到達点でもあるのです。玄関前の 1 メートル四方の御影石には「公害と闘い 環境再生の 夢を 滋賀 大学前学長 宮本憲一」と彫られた記念碑が建立されています。



左 宮脇君雄さん 右 宮本憲一先生

「塞がれた灰色の空 昼間からライトをつけて走るクルマ。一九六〇年代から七〇年代

にかけて「公害」という言葉さえ知らない住民が次々と病気になり、公害認定患者は七〇〇〇人を超えた。かつてこの地は日本一公害激甚地といわれ、大気汚染による「緩慢な殺人」が進行した。「手渡したいのは青い空」。一九七八年、住民はやむにやまれず裁判に訴えた。工場とクルマによる複合大気汚染を裁く裁判は、二〇年を経て勝利和解した。人情あふれるこのまちに、にぎわいと穏やかなくらし、自然豊かな風景をとりもどすためのたたかいは続く。

二〇〇六年一〇月一日 原告団長 森脇君雄」

(2018年4月29日)